

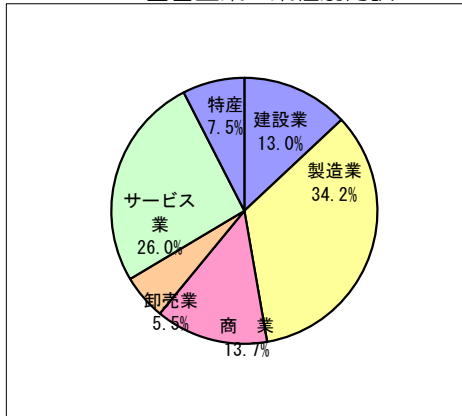
小野商工会議所会員事業所 景気調査（平成29年第4四半期）集計結果

平成30年1月31日

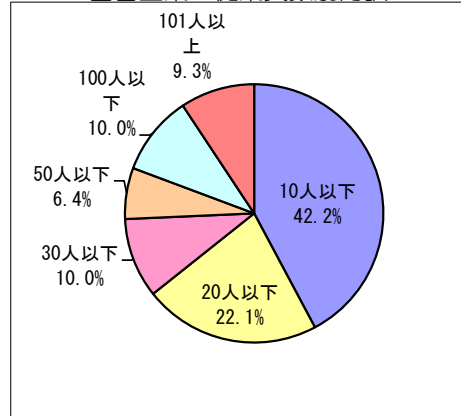
アンケート回答企業数 146社 （アンケート送付数 204社）
 回収率 71.6%

調査対象期間 平成29年10月～12月
 比較対象期間 前年同期 平成28年10月～12月
 前 期 平成29年7月～9月
 来 期 平成30年1月～3月

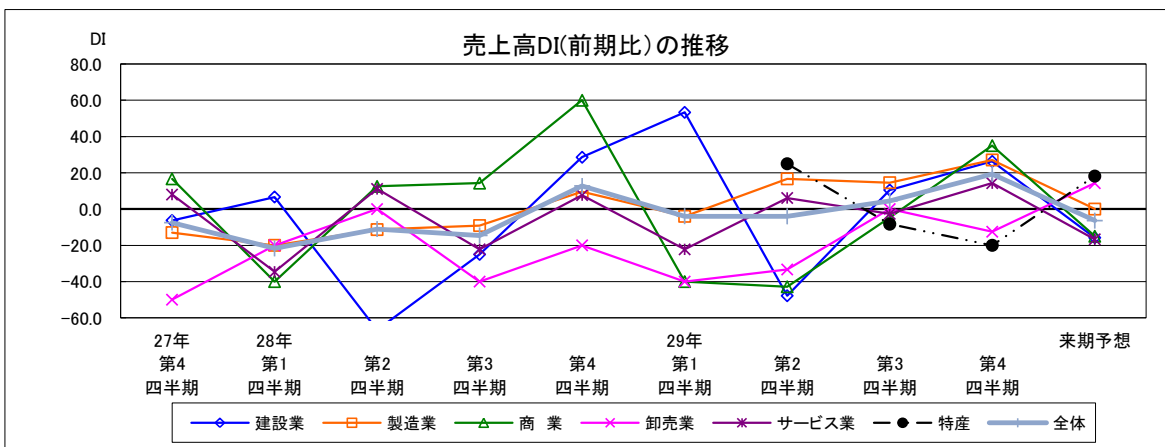
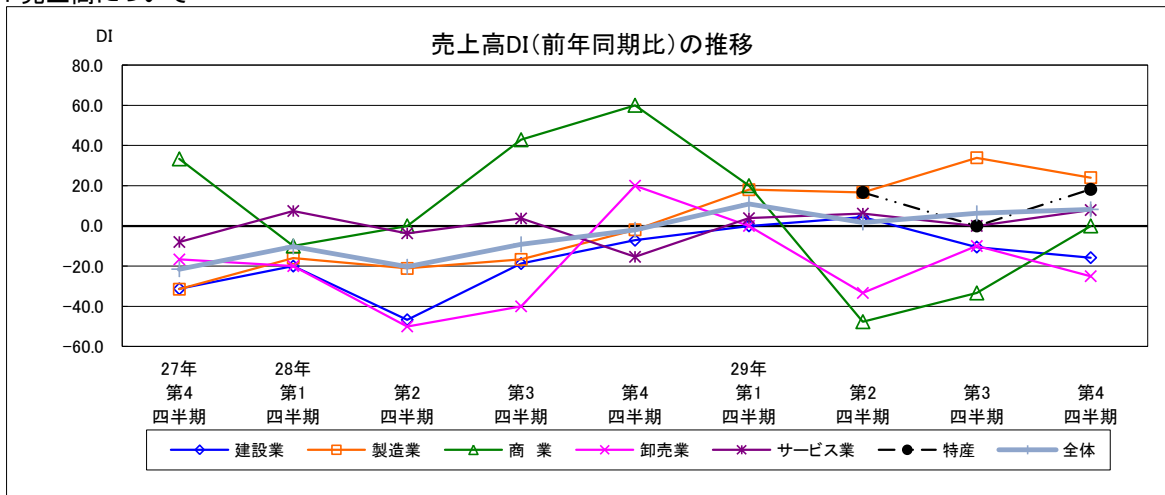
回答企業の業種別内訳



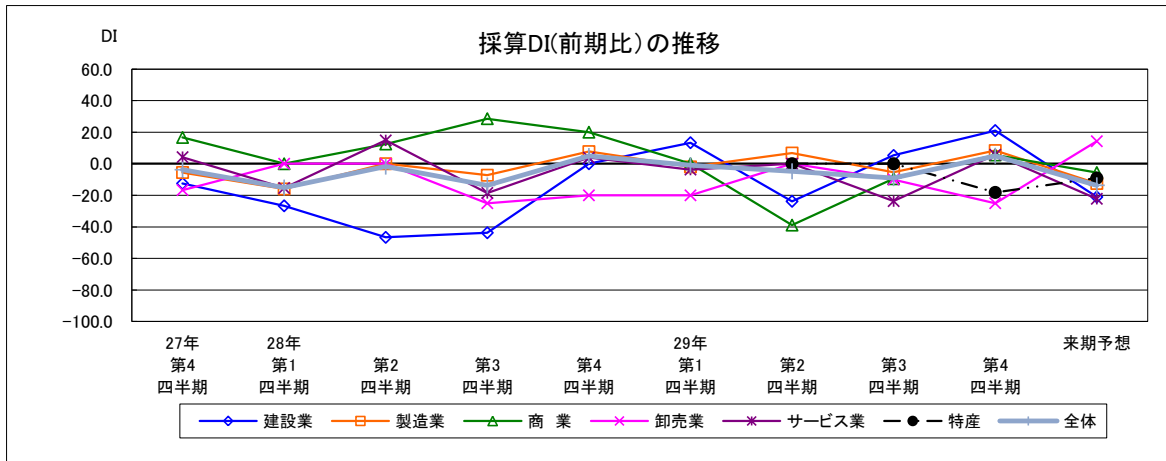
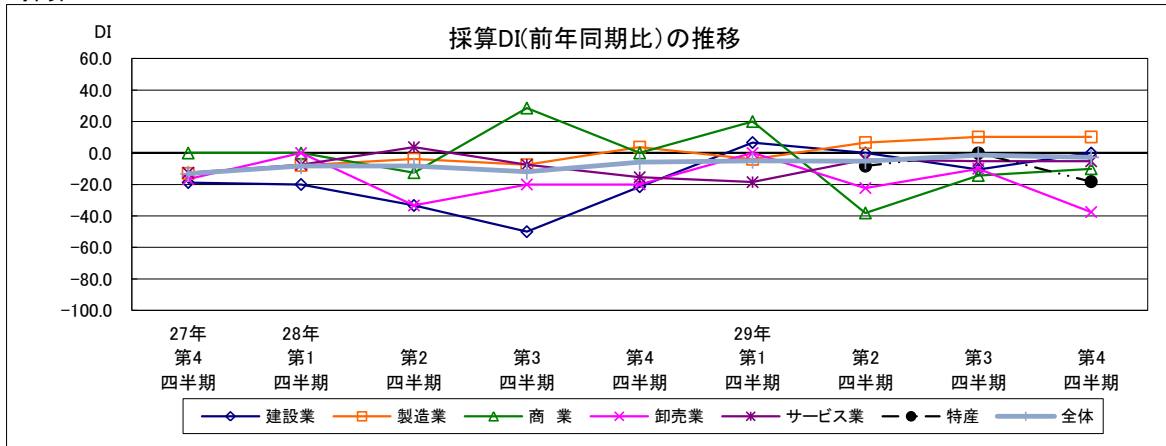
回答企業の従業員数別内訳



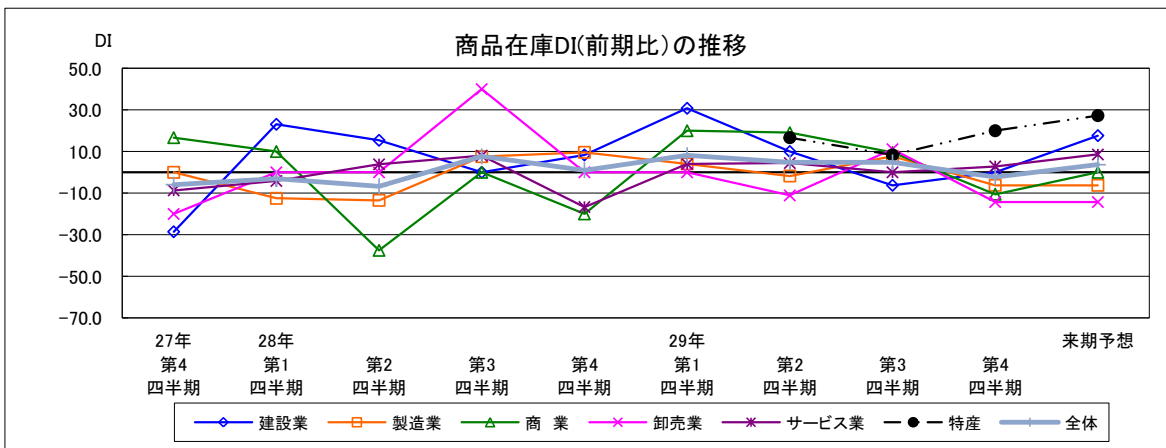
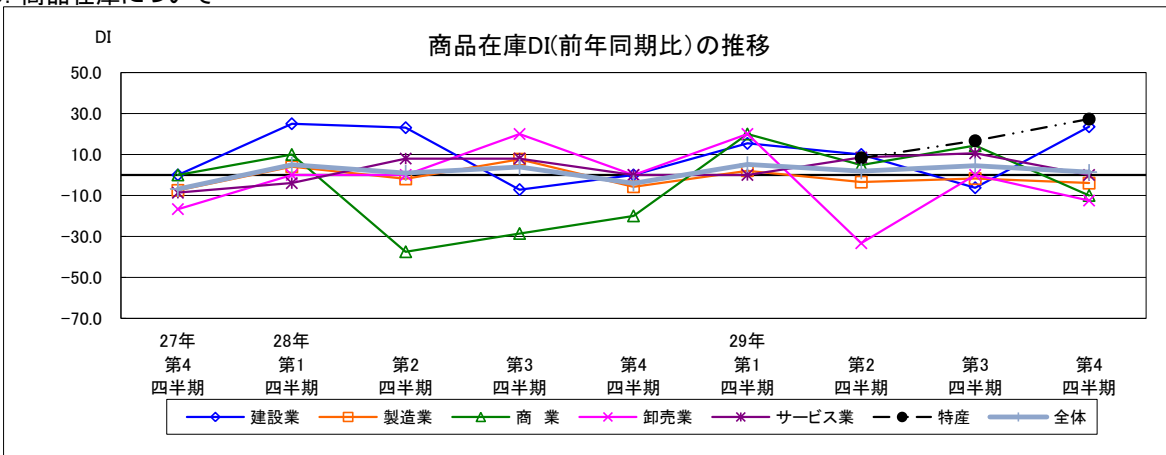
1. 売上高について



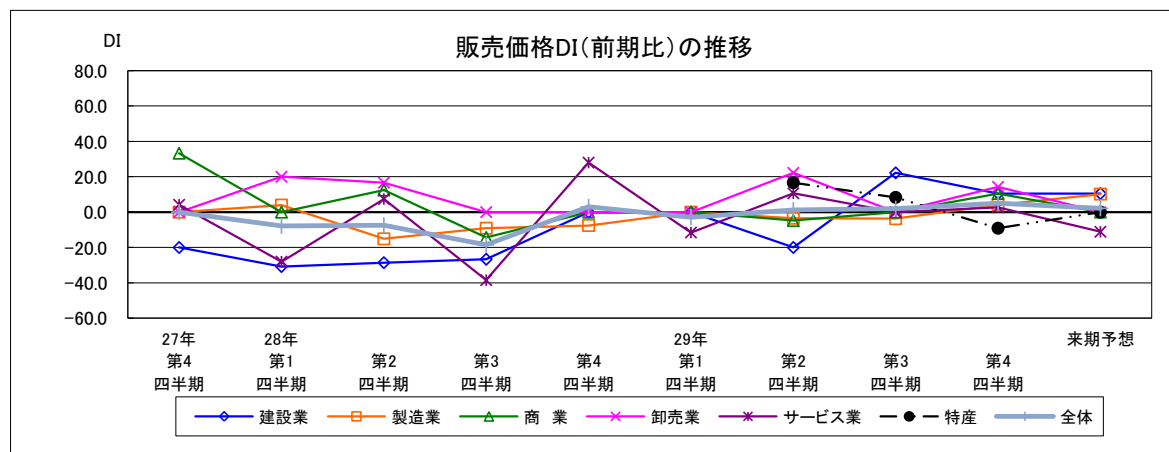
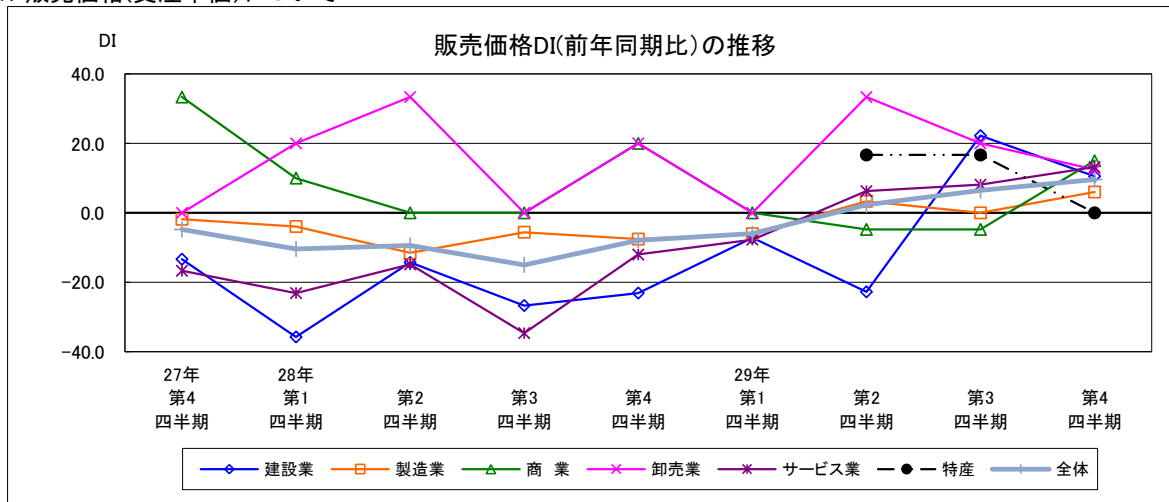
2. 採算について



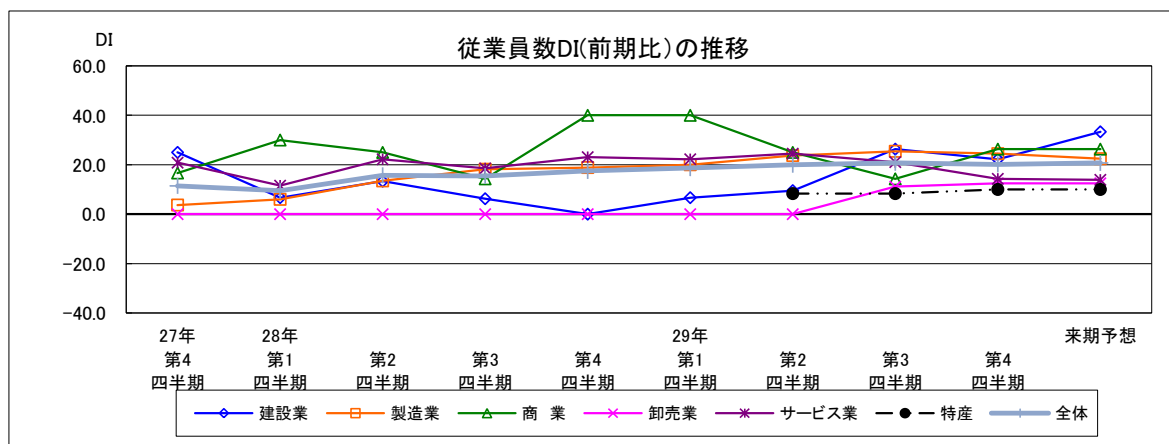
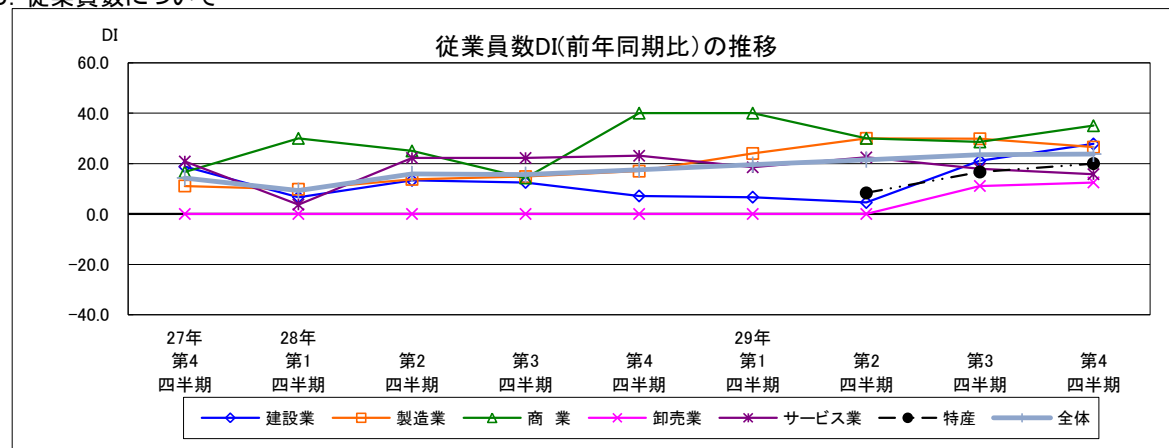
3. 商品在庫について



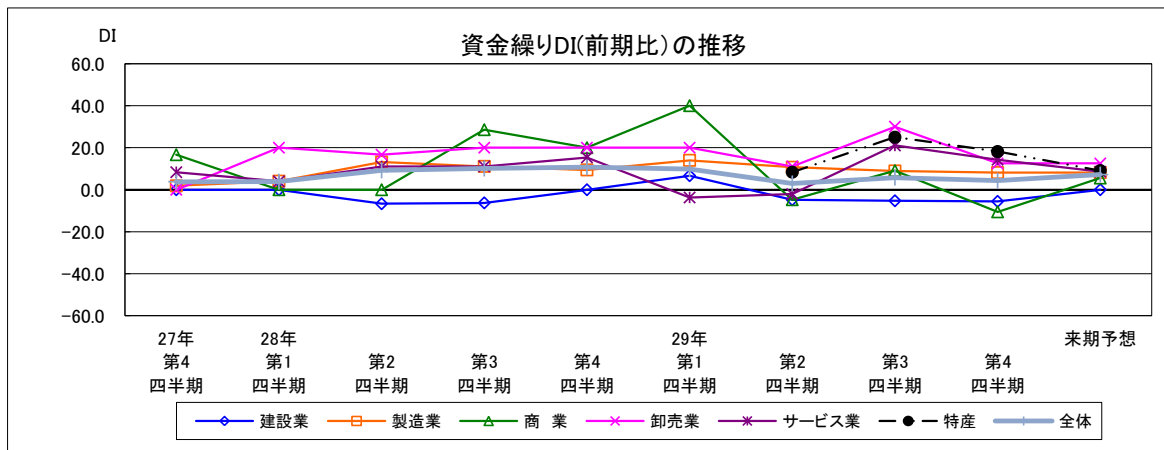
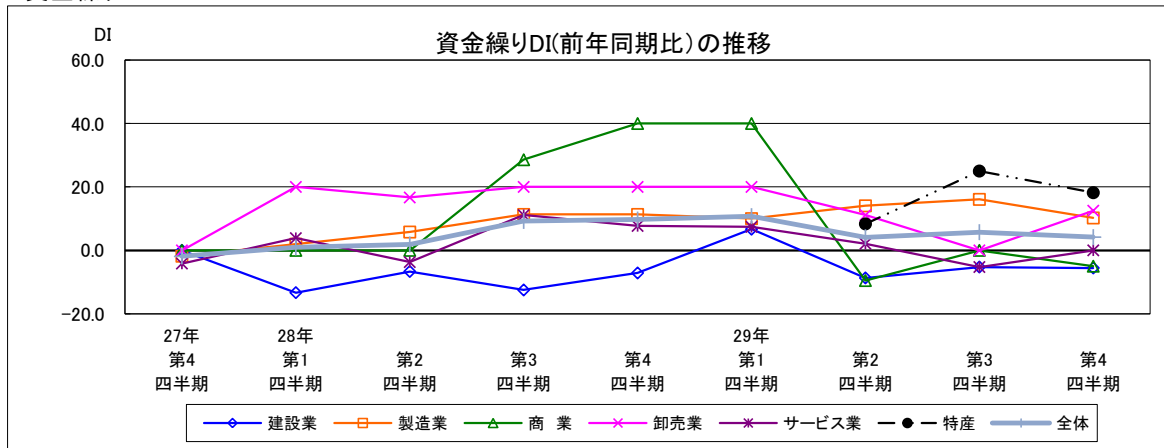
4. 販売価格(受注単価)について



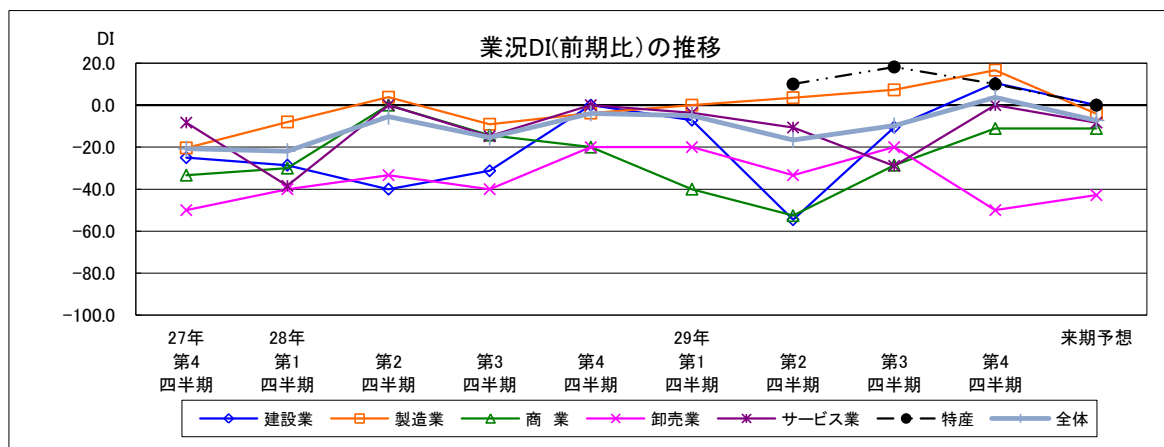
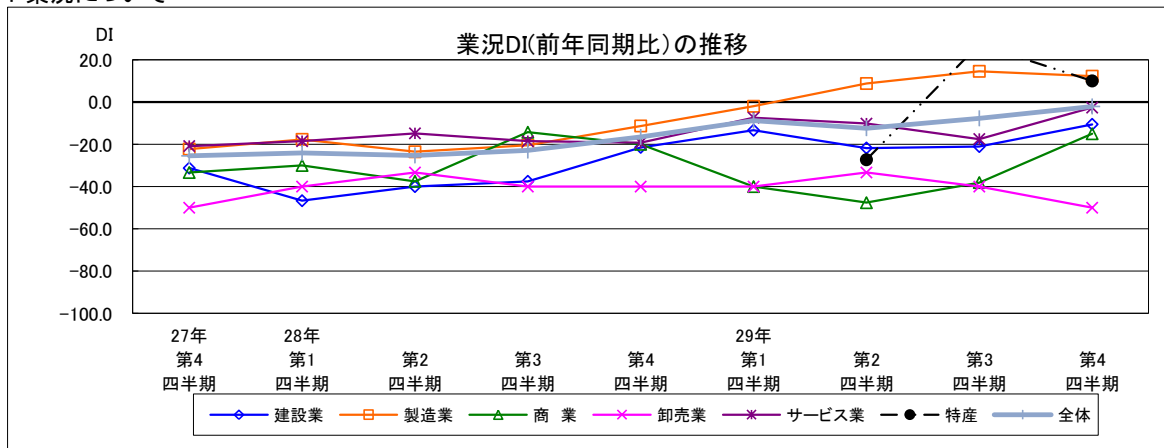
5. 従業員数について



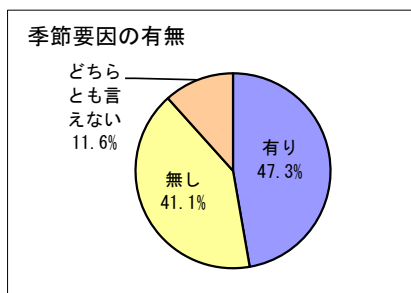
6. 資金繰りについて



7. 業況について



1～7の項目について季節要因による変動はありますか。



8. 以下は、頂いたコメントの一部を紹介しています。

○建設業

- ・多忙
- ・業界に従事する者の高齢化と若年化の不足が課題であり、10年先の見通しが悪い。
- ・今期は民間のお客様の設備投資が期待以上にありましたが、今後の展望がどうなるのか不安です。

○製造業

- ・今期は国内工場再編のため、受注量は増加傾向になるが、受注増に対しての人員確保が追いついていない。現状派遣に頼っているため、人材費を圧迫している。
- ・各種補助金が多くの場合、実績の有る企業に集中する様な気がします。手続きが複雑で小企業には対応が難しいのでは。もっと広く補助が受けられる様なになればと思います。
- ・材料の高騰により、利益が悪くなって来ている。
- ・12月より原材料の値上げ。新製品が順調に増加しているが、いつまで続くものか不明。
- ・前半が以前の形式よりコメントしづらくなっていると思う。
- ・販売の過当競争。飼料価格の高値安定。
- ・人材確保が年々困難になってきている。当社の全拠点と比較しても、当工場周辺の募集単価は、突出して高く採算を悪化している要因になっている。
- ・中国東南アジア需要旺盛で建機油圧向け受注も多く、上半期は手いっぱい。
- ・新規顧客を取ってきて売上げを伸ばして、後継者が承継できるような体制を講策できればよい。部品の修理と機械の保守電気設備工事ができる業者が減っているの、新規でそういう業者を見つけたい。

○商業

- ・同業者ではなく、コンビニ・ネット・量販店に顧客が流れている。ギフト・贈答品としての利用者が年々減少しているようだ。
- ・大手企業が優遇され、零細個人商店は無視されています。大手スーパーに優先的に商品が渡されている状態です。
- ・取扱商品の値段は変わらないが、資材関係はじり高基調である。
- ・H28年は、同業者が各店とも多く定休日があった為、最高益が上がったが、H29年はもとに戻ったことから、28年分より売上げが減少し、平年になった。
- ・設備の老朽化に伴う営業効率の悪化。（自社競合含め、新しい店への客数流出、インターネット通販の普及に伴う購買形態の変化、テナントの退店等）商圏に見合った規模での今後の店舗のあり方について模索中です。

○卸売

- ・職人の減少により生産量が下がり、他産地からの商品調達により需要に対応している。

○サービス

- ・平成30年4月、医療・介護の同時改定あり。
- ・また、粟田橋の通行止めからの影響を受けて、客数が通行止めの前の水準に戻ってきていないので、苦しい局面である。
- ・食材の高騰により売上げは伸びても採算は悪化。厳しい状況が続いている。
- ・原材料の安定は収益アップに貢献している。
- ・平日の来客数
- ・自動車業界でも整備員不足から外国人の研修生養生などの取り組みが始まっている。

○特産

- ・平成29年の申告は、売上げが増加した。雲州堂（大阪のそばメーカー）が小野市に進出してきそうな点が今年の脅威である（買収されそう）。
- ・材料確保が問題。原材料換算で考えると、1月で1万丁分くらいは出荷している。加西で新しくそば工場ができた（プラスチックそば）。加西市タカム口。
- ・取引先の経営者が高齢により廃業。今後も同じような理由で廃業が増える見込み。